



集おういのちのサンガ

ちょっと聞いてこ、お寺で話そ。

大阪教区Webサイト <http://www.icbn.or.jp>

大阪教区教化委員会

しゃらりん

32

2017/12

新教区教化体制始動！



素早く繋がる！寺～組～教区！

ご承知の通り2017年度より、新教区教化体制が、〈現場が主役、つながる教区教化〉をスローガンとして始まりました。その背景には、これまで教区教化委員会と、各組・各寺院とのつながりは薄く、教区教化と言いながらも教区全体を見通せていないという視点と、各組・各寺院の現場を支える教区教化であってほしいという声が大きかったということがあります。

そこで新教区教化委員会では、教区と各組をつなげていくコーディネートを担当する部門として「組教化推進部」を設置いたしました。まずは、各組（各ブロック）に出向いて、現場の声を聞き、現場が抱える課題やニーズを把握した上で、必要な教化支援を模索し、教区教化委員会の事業や他組における参考例を紹介するなど、教区と組、また組と組の橋渡し役（つながる）を志向します。つまり、教区と組をつなぐ窓口が設置されたとご理解いただければと思います。

この度の「しゃらりん」では、その組教化推進部の各ブロック専属の担当者をご紹介します。

私たちが出向きます！

市内ブロック(第1組～第7組)

ふじ い なおたか

藤井真隆(第2組即應寺)

市内ブロックを担当させていただきます藤井です。市内ブロックは大阪市内7ヶ組で構成され、その地域ごとの特色や課題はさまざまです。各組で抱えておられる課題や問題点をお聞かせいただき、教区との連携・情報交流の役割を通して、各組の活性化に役立てるよう努めてまいります。



北摂ブロック(第8組～第11組)

やまぐち ち じょう

山口知丈(第9組昭徳寺)

北摂ブロックを担当させていただくことになりました山口です。北摂は、どこの組も、地形的に山間部に寺院が点在されること、また、兼職されている住職方との連携などの課題が窺えます。各組に出向き、かつての蓮如上人の教線のご縁を少しでも大切にしていきたいと思っています。



北河内ブロック(第12組～第15組)

こまつ はじめ
小松 肇(第15組泉勝寺)

北河内ブロックを担当させていただく小松です。積極的に活動をしておられる北河内各組にとって、新しい事業の実施は負担が多いでしょうが、現状の事業の見直し作業を組教化推進部と行ってみませんか？ 各組の事業情報を横断的に知ることができるので、お手伝い出来る事があると思います。



中河内ブロック(第16組～第19組)

ひろせ すぐる
廣瀬 俊(第17組法観寺)

中河内ブロックの廣瀬です。その昔、八尾別院を中心にお逮夜市の賑わいがあったように、河内には河内の門徒に合った教化活動がきっとあるはずです。門徒さん一人ひとりに教えが届く活動をお手伝いしたいと思います。

和泉ブロック(第20組～第23組)

まつい さとし
松井 聡(第21組浄得寺)

和泉ブロックを担当する松井です。私の担当する地域は、だんじりや布団太鼓で活きのいい泉州地区と伝統のある和歌山県です。各組の意見を教区に伝え、組の教化活動の手助けができればと考えております。よろしくお願いします。



大和ブロック(第24組～第27組)

ひらの けいしん
平野 圭晋(第27組願隨寺)

大和ブロック担当の平野です。大和は過疎化が進み、無住や兼業寺院が過半数を占め、また住職の高齢化等で活動が制限されている寺院が多いのが実情です。そうした地域性に即した教化をご提案できたらと思っています。



出向く教化のご紹介

第4組寺族研修会へ

寺院儀式相談室（儀式・法要部）

2016年度の第4組寺族研修会のテーマは「こんな時どうする？」

—今さら聞きにくい葬儀・法事の儀式作法 おさらい—。前年度の研修で、葬儀を見直そうということになり、「寺院儀式相談室」（教区教化委員会 儀式・法要部主催）を活用し、講師を吉川知徳師（第4組阿彌陀寺）にお願いし、葬儀について2

回の研修を行いました。

1回目は自坊の常榮寺にて、概説的に「葬儀とは？」をテーマに資料を参照しながら、「寺族」の葬儀・中陰の一連の流れを確認しました。儀式作法の由来・由縁にまでさかのぼって教えていただき、疑問に思っていたことが色々と納得のいく研修会でした。



2回目は聞名寺にて、西川禅慈師（第5組法泉寺）を助手に、実習形式で行いました。初めに、『真宗大谷派 寺院における葬儀の基本』（大阪教区出版会議）をテキストに、「紙華」や「根菓餅」の由来などを聞き、いざ制作へ。材料を準備していただいていたこと

もあり、初めてながら2時間の研修で「紙華」一組と「根菓餅」一対が完成しました。材料集めから始めるとなるとかなり大変なことが想像できます。最後にその材料の入手方法を教えていただき研修を終えました。

改めて考えてみて気づかされたことや、実際に手を動かしてみてもあったことなど、お陰様で充実した研修になりました。

（第4組常榮寺・久世見証さん）

第9組人權研修へ

ハンセン病問題に共に学ぶ実行委員会

（社会・人權部）

第9組では、6月30日午後、豊中市の誓願寺で人權研修を実施しました。

テーマは「ハンセン病問題から学ぶ」で、研修は二部構成としました。第一部は「真宗大谷派とハンセン病問題」という題で、真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会委員である小松裕子師に講義をしていただきました。第二部はハンセン病回復者でハンセン病関西退所者いちょうの会原告団顧問の森敏治師に、「偏見・差別解消に向けて」これからのありの



ままに」という題で語っていただきました。森さんは、ハンセン病であつたことを隠さず生きておられます。

後の質疑の時に、私は思い切つて尋ねました。「こんなことを尋ねてよいのか、失礼なことをお聞きすることになるとと思いますが、ハンセン病を発病したことは自分の意志ではないのに、自分にはどうしようもなかったのに、その納得し難い自分の境遇をどのようにして受け入れたのか、受け入れられたのか、領けたのかをお話しいただければ幸いです」と……。「このような病気に生まれたこと、お母さんを恨んだことはないけれど、隔離政策が憎い。隔離政策が悪い」と言われました。

ハンセン病については、私はこれまで身近に知ることはありませんでしたが、知ることからしか始まらないと改めて思いました。森さんが自身の思いを静かに語られた言葉とその姿を見て、これまでの苦難の歩みを想像しました。そして、その事実を知った私たちが、今後どう行動しよう言動するのか、その姿勢を私たちが問われることになりました。

(第9組浄光寺・木田正裕さん)



子ども会へのブットンくんの派遣

子ども同朋唱和講習会（儀式・法要部）

こんにちは、ブットンくんと一緒に、いろんなお寺の子ども会に遊びに行っているお兄さんです。

メンバーは、難波別院の公式キャラクタ―であるブットンくんと一緒に、依頼を受けた大阪教区のお寺の子ども会にお邪魔をして、お寺に遊びにきた子どもたち

と一緒に正信偈のお勤めをしています。

とはいえ、いきなりお勤めをすることは子どもたちにはとても難しいので、みんなと仲良くなるために、本堂でゲームをしたり絵本を読んだり、楽しいことをいっぱいしています。

初めて会った友達同士でも、1時間から2時間を一緒に過ごすうち、すぐに心の距離が近くなっていくことが子ども会の良さだと思います。

僕たちスタッフは、

ただ子ども会にお邪魔して、お勤めをするだけではありません。

年間、数回の教区内講師からゲーム等の講習を受けつつ、年に1回は教区外から講師を招き、1泊研修をしています。

毎回講師の先生からは「お寺で子ども会をすることはどういうことか？」という課題をいただいています。

また、「子どもは漢字で子供と書きますが、大人の供をさせる『供』ではなく、大人側が子どもの純粋な眼から学ぶ活動の場が子ども会ではないだろうか」と教えていただいています。

子どもたちが本堂で手を合わせることをすすめる活動は、これからのお寺での間法生活や、ひいてはお寺の護持につながる活動であるといえるのではないのでしょうか。

子ども1人からでも子ども会を開催していただけますし、お寺に来た人たちには「このお寺に遊びに来てよかった」と思えるように全力を尽くします。

ぜひお気軽にご依頼ください。

(第5組浄琳寺・森 広樹さん)

お寺葬ゝ第3組恩樂寺

当恩樂寺では、3年前からお寺を会場に葬儀を執行する「お寺葬」の取り組みを始めた。「葬儀会館と比

べ、遺族との距離がとても近くなり、法話も聞いてもらいやすく安価である」のが当寺のお寺葬である。始め

としては葬儀費用が比較的安価になるのがメリットであるが、葬儀社の協力も大切であり、利益が出るよう配慮して良好な関係を築くことも必要である。

たきつけは、法話好きな私には葬儀会館での教化・法話がやりにくく物足りないのが理由だ。

お寺葬では、臨終時に「必ず一番最初にお寺へ連絡」してもらうことから、お寺へご遺体を搬送

また他にも、遺影の準備や食事、移動手段の手配など、喪主以外の親族に任せ何かの役割を与えることも重要。喪主の負担軽減だけでなく、儀式に対する参加意識の向上も期待できる。すると儀式や法話への共感が高まり、仏教やお寺に関心を持つてもらえ、お寺葬の後、行事に参加する人が増えた。

してから枕勤め、打合せ、湯灌、納棺、出棺、火葬まで全てのプロセスに関わり、おもに寄り添い傾聴し、時には機に応じて仏法を話すこともある。本堂での通夜法要後は座敷にお齋会場を設置し食事を共にしたり、布団を用意することもある。

これまで自坊の門徒と地域対象に何度かお寺葬説明会を開いたが、他にもフェイスブックで呼びかけた僧侶を対象に開催し、その様子は『中外日報』などにも報じられた。また第2組青年会、第20組仏教講座にて「寺族」向けの講習をする機会もいただいた。

本堂を会場に、既存の施設と野卓^{のしよく}などを使用し、「寺族」も様々な手伝いをするため、遺族に

実は最初は自坊だけの活動にして、他寺院にはナイショにしようと思っていた。しかし、閉塞しつつある寺院の運営状況は仏教界全体の問題である。自坊だけが盛り上がりつついくことは不可能で、ご門徒や他寺院、宗門全体が元氣にならないと共

倒れになる。共に学ぶ仲間が最も大切だと信じて精進する日々である。当寺にはこれまで培ったお寺葬の経験と資料などを提供、説明する用意があるので、ご検討される方は気軽にご連絡ください(※)。

当寺での取り組み方を全てマネしていただきたいわけではなく、条件的にできない場合もあり、寺院内の人間関係や地域のシキタリ、強い葬儀社など、様々に反発して歪みや混乱を生じさせてまで取り組むべき方策ではない。熱心に取り組んでもマイナスになる可能性は十分にある。特に地元の強い葬儀社とは慎重に歩み合わせるべきである。私はそれらの問題と真つ向勝負し、寺院内人間関係、古い地元葬儀社との関係を悪化させた。そこまでしてやるべきだったのかと言われると、もっと摩擦少なく要領よく取り組めただろうと反省はあるが、それ以上に門徒が篤くなってくれた点において、そうだと言いたい。

(第3組恩樂寺・乙部大信さん)

※連絡先メールアドレス

onrakuji7676@gmail.com





11月3日文化の日、自坊稱念寺で「寺フェス」というイベントを開催

お寺の未来 それぞれの取り組み

寺フェス〜第2組稱念寺

した。普段はライブハウスで演奏している若い演奏者さんたちが出演する音楽イベントである。尼崎にあるライブハウスの全面的な協力により、お寺はお祭りのような賑わいに包まれた。

それまでの稱念寺は地域に開かれていない寺院であった。何とかして地域に開かれたお寺にしたいと住職を継いだこの1年間、色々なことを考えて来たのだが、自分一人の力では計画は遅々として進まなかった。同時に住職として、また人間として成長をするために沢山の人の出会う事も必要だった。

ふと思い出して訪れたのが尼崎

にあるそのライブハウスだった。仕事を終えた若い人たちが自分の技を披露し、ファンと交流を持つ。そこには苦しいこと悲しいことを歌にして歌う人がいて、その歌で救われる人たちがいた。彼らは互いに寄り添い、認め合っていた。そのような文化はお寺にもあったはず。楽しくお寺を訪れて、寄り添い、認め合い、日常に帰っていきける場が。このような2つの文化が混ざり合った時、どうなるかとても知りたくなった。

お寺でライブをする協力を求めたとき、嫌な顔をする人は居なかった。お寺という文化に対する興味は若い人たちにも強くあったのだった。そういう人たちに勇気を貰う形で、今回のイベントは最高の形で開催する



ことが出来た。素晴らしい音楽が本堂に流れ、多くの笑顔で満たされた。そして何よりも、仏様の話を聞いてくれた暖かくて真剣な表情を僕は生涯忘れることはないだろう。

(第2組稱念寺・岸野龍之さん)



僧伽について

お釈迦さまが悟りを開かれ、布教をはじめたころ、お釈迦さまを慕った修行者や在家信者がお説教を聞き、生活を共にするため、各地に小さな集団を作りました。その集まりを「サンガ」と呼びます。「サンガ」とはインドの古い言葉で「集団」「群れ」を意味します。後に出家修行者を中心とした仏教集団を指す言葉となりました。その集団の性質は時代によって変遷していきますが、仏の教えを学び聞く者の集まりというところは変わりません。やがて、仏教が中国に伝わり經典が漢訳される

と、「サンガ」は「僧伽（そうぎや）」と音写されました。ちなみに、お坊さんのことを「僧」と呼びますが、この「僧伽」に由来するそうです。日本には飛鳥時代に仏教が伝わり、仏教を篤く敬われた聖徳太子（厩戸皇子）は、自身の作られた十七条憲法の中に「篤く三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり」と記されています。また、真宗門徒が法話をいただくとき、「自ら僧に帰依したてまつる」と三帰依文を唱和します。ここに出てくる僧とは「僧伽」を意味します。釈迦牟尼仏、仏法そして僧伽

（サンガ）が三宝として敬われ、大切にされてきたのです。

さて、サンガに集う人はどんな人なのでしょう。仏教を学ぶ者の集まりと聞くと、何か大そうに感じますが、特別な人の集まりではありません。誰の心の奥底にもある、生まれた意義を明らかにしたいという願いに突き動かされ、真実の教えを求めようとする人たちの集まりです。そして、その教えを求めるのは一人ではありません。共に歩む仲間があり、また、私たちに先だつて歩まれた人があるのです。それこそお釈迦さまの時代から現代までどれだけの人が歩まれてきたことか。数えきれない人によって仏法の尊さが証（あかし）されてきたのです。

私たちの生活は「今より楽をしたい」「他の人より得をしたい」というような、自己中心的な思いに縛られています。他人と比べ喜んでみたり落ち込んでみたり、その時の状況に振り回されてばかりです。だからこそ、今、ここにある私をそのままに喜べる道を、よき友と共に仏法に訪ねることが、私たちに願われているのではないのでしょうか。

（教化センター主幹・三浦 央）

1月までの 教化委員会の予定

※会場は大和大谷別院会場の秋安居以外すべて難波別院同朋会館講堂です。

●12月12日（火） 18時半～20時
真宗の仏事と法事を考える講座①
「寺院における葬儀の基本①」
講師・吉川知徳氏

●12月20日（水） 14時～17時
宗祖親鸞聖人学習講座①
「歎異抄に学ぶ」
講師・古田和弘氏

●12月21日（木） 18時～
聖典講座（仏教学）①
「ブツダのことは（スツタニパータ）」を読む
講師・織田顕祐氏

●1月9日（火） 9時～16時
プルタブ衣類回収
（集荷物／お餅・衣類・食品・プルタブ）



無償でもらえる 記念念珠のご紹介

● 門徒用結婚記念念珠と誕生児念珠

ご存知のかたもおられるでしょうが、東本願寺には、ご寺院やご門徒に提供できる教化教材があります。有償・無償と様々ですが、例えば無償の教化教材の中には『門徒用結婚記念念珠』と『誕生児念珠』があります。

まず『結婚記念念珠』ですが、新郎用の素材には柘植^{つげ}、新婦用にはハリ紅水晶の珠が各々使われており、どちらの念珠にも親玉には五環紋が刻印されております。また「ご結婚に寄せて」という真宗のみ教えに基づき結婚生活を願ったリーフレット



も同封されています。

次に『誕生児念珠』ですが、白い小型の念珠が「遠慶宿縁」と記された厚紙に包まれており、こちらも「ご家族のみなさまへ」という添え書きが同封されています。

これらの申請手続きですが、教

いただけると幸いです。

最後に、結婚・誕生という尊いご縁で結ばれた方々に、共に念仏者として歩んでいく機縁として、結婚式や初参式・誕生児参りの記念としてお渡ししたいと思っています。

(教務所・上山称信)

務所に申請用紙をご用意しておりますので、そちらに必要な事項(結婚念珠の場合は新郎新婦の名前と連絡先・誕生児念珠の場合は保護者氏名、住所、誕生児名、性別、生年月日)を記載のうえ教務所へご提出いただきましたら、念珠をお渡しいたします。どちらも教務所にある程度確保しておりますが、数が多い場合は事前に必要な数をご連絡

● 1月23日(火) 18時半〜20時
真宗の仏事と法事を考える講座②
「寺院における葬儀の基本②」
講師・奥田勢至氏

● 1月24日(水) 14時〜17時
宗祖親鸞聖人学習講座②
「歎異抄に学ぶ」
講師・古田和弘氏

● 1月16日(火)〜17日(水)
16時〜20時半

秋安居(難波別院会場)
『蓮如上人御一代記聞書』 試論
講師・大桑 齊氏

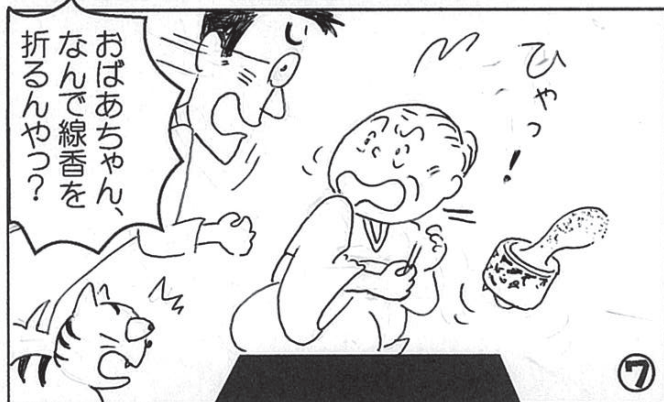
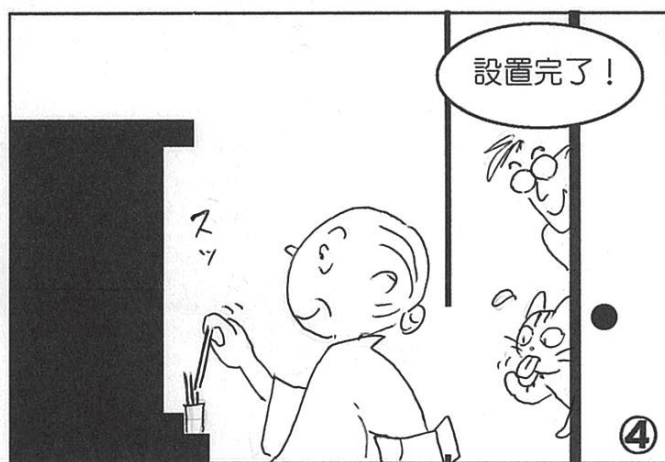
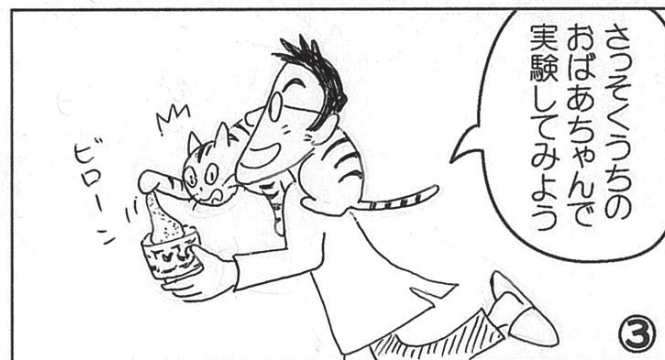
● 1月18日(木) 13時〜17時
秋安居(大和大谷別院会場)
『蓮如上人御一代記聞書』 試論
講師・大桑齊氏
会場・大和大谷別院会館研修室

● 1月25日(木) 18時〜
聖典講座(仏教学)②
「ブツダのことは(スッタニパータ)」
を読む
講師・織田顕祐氏

未来仏事研究所



お線香の作法



折々の華

正月の立華と竹の水揚げ



見えざるものを見せていただく、これを光という。
見えざるものをむこうから形をあらわして見せしめて
くださる。これを象徴という、荘厳という。
荘厳をもって如来は見えざるものの目をひらき、見
えざるひとを招喚して、われここにありとしめしてく
ださる。

曾我量深

仏華は、私たちのお寺の内陣の荘
厳の中でも、ひとときわ参拝の門徒さ
んの目にとまりやすいものです。

ですので年がら年中同じお華を立
てるのではなく、できるだけ法要の
軽重などによって変え、また折々の
季節の花を用いて四季の移ろいを表
現していきたいものです。

これからの冬から春にかけての時
期は、立華をするにはたいへんよい
季節です。長く保ちますし、木花の
種類も豊富に出回ります。ウメ、ロ
ウバイ、ボケ、ツバキ、モモ、カン
ザクラ、モクレンなど、さまざまな
真で立てることができます。

また正月の華は松竹梅をはじめ、
センリョウやナンテン、ハボタン、
ヤナギやクマザサなど正月特有の花
材を用いて、新年らしく華やかに立
てたいものです。

写真の仏華は御代前のもので、竹
を真にしています。あまり竹藪など
が近くになく、手に入りにくい方も
多いと思いますが、入手できればと
ても立てやすく、そして目立つもの
です。水さえ揚げれば今の季節なら
半月以上は保ちます。

水揚げの方法は上から揚げたい枝
があるところまで水が入るように竹

の節を金棒などで抜き（すべての節
を抜かないでください）、上部から
熱湯を入れます。それからすぐにそ
の熱湯を捨て、今度はお水を入れま
す。あとは水が減ったぶんを上から
补水してください。一日置いておけ
ば成功しなかったものは葉が丸まっ
てしまいますので、水揚げは立華す
る前日にするとよいでしょう。

その他、副（ソエ・真の下から向
かって左後方に伸びる役枝）には枝
垂れ柳を用いています。内陣の床ま
で届くような長い柳は高価ですが、
使うとお正月らしく、そして格好の
いい花材です。

みなさまもぜひこのように季節感
を大事にして、仏華を楽しんで立て
てみてください。

（文：立華 ちいちの華 澤田 見）

【使用花材】

真Ⅱ竹／役枝Ⅱセンリョウ（赤）・枝
垂れ柳・ヒバ／胴Ⅱヒバ・キク（白・黄）
コギク（白）・ナデシコ・ハボタン

※「ちいちの華」のウェブサイトな
どにも立華の手順が解説されていま
す。ぜひこちらでもご参照ください。

www.icho.gr.jp/n_dantai/chichi

牛タン たんや喜扇



今回、ご紹介したいお店は南御堂から徒歩 5 分の「たんや喜扇」です。その名の通り牛タン専門店です。

牛タンはビタミン B2 とナイアシンは他の牛肉の部位と比べ、非常に含有量が多いといわれ栄養が豊富で美容と健康に効果抜群の食材です。

「たんや喜扇」の牛タンは、厳選されたわずかな部位を独自の低温熟成方法と遠赤外線の高火により、ジューシーでサクッとした歯応えの良い柔らかさを実現させています。

今回いただいたのは「牛タン御膳」¥1,500(税込)。さすが自慢の牛タン、タンの

旨味がしっかり残って柔らかく絶品牛タンでした！その他には、「牛タンオムライス」¥980(税込) も人気があるそうです。和牛を使用した「ハンバーグランチ」¥1,500(税込) もボリュームがあって食べごたえがあります。スタミナ切れの際にはぜひ訪れたいお店です！（畠中）



■南御堂周辺のお店紹介

ランチ編

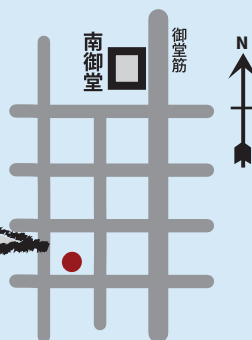
[たんや喜扇]

大阪市中央区南船場 4-8-5

TEL 06-6241-5891

営業時間 ● 11:30 ~ 15:00

定休日 ● 日曜日



発行日：2017年 12月 1日

発行所：真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町 4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人：宮浦一郎

編集：大阪教区教化委員会
広報・出版部 / 広報コー
ディネート実行委員会

<http://www.icho.gr.jp/>

編集 後記

『しゃらりん32号』をお届けいたします◆教区教化体制見直しの審議会、そして策定委員会とこれからの教区教化を検討する活動の中、『しゃらりん』もその行く末をじっと我慢で見守って

いました◆そして新体制スタートと同時にこの『しゃらりん』も晴れて教化委員会広報・出版部の中の広報コーディネート実行委員会の事業として再始動いたしました◆つきましては、「集おういのちのサンガ・ちよつと聞いてこお寺で話そ」という新教区テーマを中心に、出向く教化や、お寺独自の取り組みを紹介させていただきまし

◆これからも1ヶ寺1ヶ寺の教化活動のプラスになるものを掲載できればと考えています。（廣瀬）